2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動

- 年間指導計画や週ごとの指導計画、個別指導計画に基づいて意図的・計画的な指導を行うとともに、指導と評価の一体化の観点から評価計画の見直し、改善を図り適切な評価を行う。また、年2回実施の児童による授業評価を活かした授業改善を適宜行いPDC Aサイクルが円滑に機能するようにする。
- 授業アンケート等を活用して、主体的・対話的で深い学びが実現する教育活動を推進し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身に付けられるようにする。
- 生活単元学習にICT機器の活用を位置付け推進体制を強化する。

ア 各教科

- 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に向け、「ICTを活用した各教科等年間指導計画」や「東村山ICT学習モデル」を参考に、児童一人1台端末を日常的に活用するとともに、必要に応じてオンライン授業を行い、個別最適な学びを保証する。(ウー①)【SDGsの推進 質の高い教育環境をみんなに】
- 基礎的・基本的な学習内容の習得を図るとともに継続的及び補充的な指導や発展的な指導など、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。そのために、指導形態や教材、課題の工夫・改善を行う。「東村山市版算数基礎ドリル」や「東村山市版国語基礎ドリル」「タブドリ LIVE!」の有効活用を図りながら、個々の学習状況を分析し、個に応じた支援を充実させる。児童の実態に合わせた手作り教材を作成していく。また、児童が数の概念を理解できるように、具体物を自分で操作できるような教材開発や、視覚的に分かり易い教材の活用を工夫する。(ウー①)【学力向上】
- 授業展開モデル及び家庭学習モデルを各教科の年間指導計画に位置付け実践する。また、オンライン授業やさらなる積極的な活用のため「タブレット型端末活用推進週間」を設けるとともに、情報モラル、リテラシーを育て、情報教育の充実を図る。(ウー①②)
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」(YSK方式)「読むこと」について、図書館専任司書と連携を図り、学校図書館を積極的に活用しながら言語活動が効果的に行われるように指導を工夫する。伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養う。(ウー①)
- 東村山チャレンジスポーツ委員会の方針を受け、運動の特性に触れる楽しさを味わえる授業づくりを行う。また、運動量を確保するとともに、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わうための指導内容・方法の改善を行い、運動の日常化と習慣化を図る。(アー①)【健康体力づくり】
- オリンピック・パラリンピック教育の成果に基づき、5つの資質の育成を図るとともに、「学校2020レガシー」として培われてきたことを継続する。また、体力テストの結果の傾向を踏まえ「一校一取組」のさらなる充実を行うとともに、児童自らが目標をもって行動し、自身の能力に応じてベストを目指す意欲と態度を培って、体力向上に努めるようにする。さらに、地域・外部の人材の一層の活用を推進し、家庭・地域との連携を深め指導の充実を図る。(アー②・イー②)
- 生涯にわたって健康で安全な生活を送る食育の充実を図る。栄養士と連携した食育の授業を年間1回程度行う。【SDGs 飢餓をゼロに】
- 生活単元学習を通して、様々な日常の経験を豊かにしていく。また、定期的に刺繍等の学習を通して集中力を養う。宿泊学習での事前・事後学習では、生活していく上で必要な知識・技能を獲得させる。また、通年を通して週に1時間、ICT機器を取り入れた学習を位置付けてICT機器に触れる学習を行う。(ウー①)
- OJTとOff-JTの一環として、教員一人一人が自己の課題にあった、各種の研修や指導教諭の模範授業の参観等を積極的に活用させる。また、学んだことを校内研修において往還を図る。

イ 特別の教科 道徳

- 道徳的価値を自覚し、児童の障害の特性を踏まえ、困難を克服し強く生きようとする意欲を高め、様々な場面や状況において道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できる力を育む。(イー①・ウー②)
- 児童が考え、議論を深めながら主体的に学習に取り組むことができる授業づくりを目指し、いじめなどの心の問題に対応した問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を積極的に取り入れる。(イー①②・ウー②)

- 道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力した全教育活動における道徳教育のさらなる推進、道徳用教材の整備、継続的な評価を基にした授業改善、道徳授業地区公開講座等の授業公開を通して、家庭や地域社会との連携を深め家庭や地域における教育力の向上を図る。(イー①・ウー②)
- 特別の教科 道徳について、「考え、議論する道徳」の授業の実践を目指す。授業実践を通し、児童が自分の意見を発表する場面を作り、様々な価値観に気付くような授業を行う。(ウー②)
- ウ 外国語活動
 - 生活単元学習の内容として、体験的な活動や外国語活動を取り入れる等、基礎的な知識及び言語に対する関心を高め、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を図る。また、ALT等の外部人材を活用し、国際理解を深める。(イー②)
- エ 総合的な学習の時間
 - 探究型の学習を通して、知識や技能、学び方やものの考え方を身に付けられるよう、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育む。学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。(ウー①)
 - 実社会や実生活との関わりで見いだされる児童の身近な問題を多面的・多角的に捉え、考えさせることによって、環境や福祉・健康、防災など現代的な諸課題へのアプローチに結び付ける。教科横断的な視点で学習を進めるための手だてや体制づくりを工夫する。(ウー①)
 - 地域コーディネーター及び地域の協働活動推進担当教員を活用し、学習活動のねらいを踏まえた地域の人材や施設、出前授業、自然環境を活用した体験的な活動をオンラインの活用も含めて積極的に取り入れ、地域に根ざした総合的な学習の時間の創造を図る。地域の方々の教育力を学校に取り入れる。(ウー①)【地域とともにある学校づくり】
 - 通常の学級の「総合的な学習の時間」の内容と調整を図り、体験的な活動を重視した単元において、所属する通常の学級との交流及び共同学習を推進する。内容や時期、時数等、保護者や通常の学級の担任と相談しながら、児童一人一人の実態に配慮して行う。(ウー①②)
 - 学校図書館等を利用した調べ学習を行ったり、ICT機器や一人1台端末を活用してプログラミング的思考を育んだりする。(ウー①②)
- オ 特別活動
 - 自治的な活動を通して人間関係を築く力や協力して取り組む態度を育てる。また、学級活動では誕生日会や六年生を励ます会等の計画・立案などを行い、自ら主体的に会を運営、実行する力を育む。(イー②・エー③)
 - オンラインでの活動を含めた集団活動や体験的な活動、自己の生き方についての考えを深め、活動を言葉でまとめたり、発表し合ったりして、自己の実現を図ろうとする態度を育てる。(イー①②・エー③)【SDGsの推進 働き方も経済成長も】
 - 集団宿泊活動における自然体験や社会体験を充実させる。集団の中で個性を伸ばし、また、協力や連帯の喜びを味わわせる。宿泊学習では、身辺自立、生活習慣の見直し、体力増進、集団の一員としての態度を身に付けさせる。(エー①)
 - 児童の発達段階に応じて、学級内の係活動や当番活動、委員会活動等を計画的に行い、責任感や達成感、所属意識を養う。(イー②)
 - 年度初めに同学年の通常の学級の担任と連携を図り、児童の実態を考慮しながら交流学級を決定する。自己紹介や手作りカレンダー渡し、給食交流を中心に校内のガイドラインに基づいた交流及び共同学習を推進する。(エー②)
 - 市内特別支援学級合同行事や連合運動会に参加し、児童間の交流を深める。(エー②)
 - 年1回の和太鼓の時間を設定し、日本の伝統的な音楽楽器に親しむ機会を設ける。(エー①)
- カ 自立活動
 - 教科、各教科等を合わせた指導等の中で関連を図りながら、児童一人一人の障害や能力に応じた、日常生活の動作作業能力の向上、並びに習慣化を図る。(ウー①)
 - 物作りや生産活動、栽培等の体験的学習を通して、根気強くやり遂げる力を身に付けさせる。(ウー②)
 - 食事、衣服の着脱、排泄等の身辺処理能力の習得については、児童一人一人の実態に応じて、段階的に指導を行う。(ウー②)

(2) いのちとこころの教育

- 人権教育全体計画や年間指導計画に基づき、「いのちとこころの教育週間」の取組を通して、保護者・地域・関係諸機関との連携を積極的に進め、児童の自立を見守り助けながら共に育てる体制の構築に努める。(イー①・ウー②)【地域とともにある学校づくり】
- 安心できる空間の中で、人や社会、自然とのかかわりを通して豊かな感性を育み、生命の尊さに気付けるようにする。基本的な生活習慣の形成、教員との信頼関係や友達とのかかわりなどの基盤を整える。(イー①・エー②)
- 救命講習については、該当学年と一緒に参加する。救急救命講習を通して、救命救急の知識や技能を体験的に学び、いのちについて考える教育の充実を図る。(イー②)
- 国立療養所多磨全生園や国立ハンセン病資料館を訪問する等の積極的な活用を図りながら充実した学習活動を通じて、その歴史的背景を踏まえ偏見や差別、人権のもつ意味について考えられるようにする。(イー①②)
- 「生命（いのち）の安全教育」の年間指導計画を活用し、通常学級で行う性教育やがん教育の学習に参加し、予防に有効な手段を学び正しい生活習慣を身に付けることを目指す。(イー①②)

(3) 生活指導

- 不登校の解消に総力を挙げて組織的に取り組む。(イー②)【健全育成】
 - ・未然防止に重点を置き、不登校となりそうな兆候を把握した段階からの対応を重視する。
 - ・不登校児童一人一人の特性や家庭環境に鑑み、登校渋りの原因を明らかにし、事態の改善を図るための支援の方向性と具体策を教職員が保護者と共有し、組織的・継続的な対応を行う。登校支援員による家庭訪問や登校支援も積極的に活用する。(イー②)
 - ・不登校児童の個人支援票等を活用して指導に生かしていくとともに、「東村山市不登校未然防止・早期発見・早期対応マニュアル」「児童を支援するためのガイドブック～不登校への適切な対応に向けて～」(平成30年12月 東京都教育委員会)等を活用し、本人並びに家庭への支援を適切に行う。(イー②)
 - ・スクールカウンセラーを含めた教育相談体制を整え、職員間で問題共有を図りながら不登校の問題の解決にあたる。長期化が見込まれるケースについてはスクールソーシャルワーカーや教育相談室、子ども家庭支援センター、医療機関等とも連携を図り学校サポートチームを活用して継続的に対応にあたる。(イー②)
 - ・やむを得ず登校できない児童に対しては、一人1台端末を活用し、課題の提示やオンライン授業の配信などを行い、学習支援や進路指導に努める。また、東村山市学校における不登校児童・生徒の出席に関する取扱いのガイドラインに準じ、ICT機器を活用した自宅での学習指導等も必要に応じて取り入れる。(ウー①)
- 「学校いじめ防止基本方針」や「東村山市立学校における『いじめ発見から解決までの基本的な対応の流れ』」に基づき、いじめの未然防止、問題把握、問題解決に当たる。(イー②)
 - ・学校いじめ対策委員会を組織し、いじめが把握された場合、解決のための方向性を明確にして、早期に対応を進める。(イー①②)
 - ・全校児童に対し友達の心や体を傷付けることは許されないとの指導を徹底し、全児童への「いじめアンケート」を実施するとともに、児童の状況に関する教員間の情報共有を行う。また、児童に標語などを募集し、いじめの未然防止に向けた児童の意識啓発を図る。(イー①②)
- 保護者や関係機関との連携を図り、児童の健全育成について学び合う雰囲気醸成を図る。(アー②・イー②)
 - ・家庭教育の手引書を活用し、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、規範意識の醸成、児童の安全確保に努める。併せて「SNS東京ルール」や「GIGAワークブックとうきょう」、「ファミリーeルール講座（東京都都民安全推進部）」「東村山市立中学校 インターネット等の利用に関する『共通ルール』」等を活用し、SNSの適切な利用に関する意識啓発を行う。児童の実態に応じ、内容を工夫して情報モラル教育を推進する。(イー②)
 - ・家庭・地域・関係諸機関との協力体制を生かし、児童の健全育成に関する取組として、挨拶運動や言葉遣いに関する指導の徹底を図る。(イー②)

第2表の4

学校名 東村山市立八坂小学校（特別支援学級）

- 学校行事や学校公開、日常の相互連絡を通して、学校での児童の様子を伝え、連携した指導を行う。（アー②）
 - 食物アレルギー対応について、全教職員で確認しながら共通理解を図る。また、保護者には、就学時健康診断、保護者会等で、学校におけるアレルギー対応及び学校給食における食物アレルギー対応の内容の理解を図り、「学校生活管理指導表」をもとにした除去対応を行う。（アー②）
 - 風水害及びJアラートを含めた危機に対し適切な行動が取れるよう、安全指導、防災教育を見直し、防災ノートを活用した指導を行う。セーフティ教室や薬物乱用防止教室等とともに、SOSの出し方に関する教育についても、その充実を図る。また、大規模災害が発生した際に地域の一員として行動できる子供を育成するために東村山防災の日を中心に「八坂防災キッズ」の活動を位置付け、避難所運営委員会や防犯防災課、および関係諸機関と連携を図る。（アー②）【地域とともにある学校づくり】
 - 自殺予防に関しては、「SOSの出し方」に関する授業を行うとともに身近に相談できる大人がいることを啓発していく。
- (4) キャリア教育・シチズンシップ教育
- 発達段階に応じて主体的に挑戦して困難な課題を乗り越え、努力することの意義を実感的に理解できるようにする。（イー②）
 - 集団の一員としての自覚を高めるとともに、友達と自分の違いを理解し、互いに協力し合い、自他共に認め合い、より良い生活を築こうとする態度を育てる。（イー②・ウー②）
 - 職場体験や職業インタビューなど地域における様々な方々との交流を通して、公共性・社会性の基礎を育む。（イー②・エー②）【SDGsの推進 働き方も経済成長も】
 - 異校種の学校との円滑な接続を図るために、児童のキャリア発達に関する情報を的確に把握し中学校への引き継ぎを確実に行う。（イー②）
 - 入学した児童が、就学前教育の学びを基礎として主体的に自己を発揮し、新しい学校生活に円滑に移行していくために、スタートカリキュラムを作成し、活用する。（イー②）
 - キャリアパスポートを作成し、将来の生き方を考えることにつながる活動を記録、蓄積し、学校で学んだことを振り返る機会を継続して設ける。それを学校、家庭等における学習や生活の見通しのために活用し、新たな学習や生活の意欲とともに自己のキャリア形成につなげられるようにする。（イー②、エー②）
 - 市内の特別支援学級の小中交流活動を通して、自分の進路への興味・関心をもたせる。（エー②）
 - 高学年を中心に、将来の自立に向けて保護者と連携を図り、安全面に留意しながら、見通しをもって自立登下校に取り組む。（エー②）
 - 主権者としての意識の醸成や消費者教育、租税教育については、社会科、家庭科を中心に実施する通常学級の学習に参加したり、生活単元学習の中でお金の使い方、買い物学習など具体的な学習をしたりして、内容の理解を深められるよう努める。（エー②）

(5) 特別支援教育

- 将来の自立と社会参加を実現できるよう児童一人一人の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善又は克服するために適切な教育的支援を行う。特別支援学級、特別支援教室、通常の学級間の連携、校内委員会を中心とする組織的取組、関係諸機関との連携を強化する。（エー①）

第2表の5

学校名 東村山市立八坂小学校（特別支援学級）

- 障害の状態や発達の段階を把握した上、保護者との協力の下、個別指導計画、個別的教育支援計画を作成及び見直しをする。合理的配慮の提供にあたっては、保護者の思いや考えを十分に受け止め合意形成に努める。（エー①）
- 特別な教育的支援を要する児童が、学級の中で安定した気持ちで活動できるようにするために、発達

- 特性に合わせた指導・支援を工夫する。スクールカウンセラーや巡回指導教員と通常の学級の教員とが児童の状況、指導・支援の方向性について理解し合い、協働によって指導の充実を図る。(エー①)
- 交流及び共同学習を推進する。障害の有無にかかわらず、児童が互いの個性を理解し、思いやりの心を言葉や行動によって示すことができるよう指導にあたる。(イー①・エー①)
 - ユニバーサルデザイン教育の観点から、黒板周りの不要な視覚的刺激を減らす。また、単元や一単位時間のめあてや流れを明示し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。(エー①)

(6) 特色ある教育活動・その他の配慮事項等

- レインボー班活動（異年齢集団による交流）(エー③)
 - ・レインボー班における活動を充実させるための話し合い活動や、話し合いで決まったことを協力して実践したりする活動など、自発的、自治的な活動を通して、人間関係を築く力や協力して取り組む態度の育成、自治的な力を育てる。上学年の児童にはリーダーシップや自己有用感、問題解決力を、下学年の児童には、フォロアーシップや上級生に迫ろうと努力する姿勢を養う。
- 特別支援学級と通常の学級との連携・協力(エー①)
 - ・通常の学級の児童及び全教職員に対する特別支援教育への理解と啓発に努めるとともに、特別支援学級が蓄積してきた個別支援の方法等を生かし、個々の児童の発達特性や個性に応じた指導・支援の在り方を工夫する。
 - ・校内委員会において、交流及び共同学習の在り方についての具体的な内容を検討し、実施する。
- SDGsへの理解を深める一環として、①食育の充実、栽培活動の充実をする。②ICTを活用した質の高い教育や、自分の意見をもって発表できる児童の育成を目指す。③自己の生き方や社会参画について、学習する機会を設ける。(ア②・ウ①・エ②)
- 「社会に開かれた教育」の実現に向け、学校運営協議会制度を活用し、学校と地域の協働活動を推進し、令和8年度から実施するコミュニティースクールの土台を固める。(ウ①)【教育課題への対応】
- 青葉学級（特別支援学級として）
 - ・児童一人一人の発達状況を把握し、指導の重点について教員間で共通理解を図り、指導にあたる。また、保護者の協力の下、個別の教育支援計画及び、個別指導計画を年度初めに作成し、保護者との意思疎通を図りながら見直しを行い指導に生かす。さらに、東村山市特別支援教育推進計画（第5次実施計画）に基づき、特別な教育的支援を必要とする児童に対して合理的配慮を行うことで、より具体的・実践的な指導を行う。達成状況は「あゆみ」で評価し、教育活動に生かす。(エー①)
 - ・特別支援学級設置校として、通常の学級の児童及び全教職員に対する特別支援教育への理解と啓発に努める。青葉学級で蓄積してきた個別支援の方法等を校内委員会の中で提案していく。(ウ②・エ①)
 - ・巡回相談と言語聴覚士による言語指導を年2回ずつ設定し、児童の課題を明確にする。その内容を保護者と担任が共通理解し、学習内容や生活力の向上に生かす。(エー①)
 - ・児童の多様な特性についての研修を行い、児童一人一人に応じた指導に生かす。(ウ①・②)
 - ・週2回の朝の時間を活用してマラソンに取り組み、年間を通して基礎的な運動能力を養い、最後まで全力で運動に取り組む力を育てる。(ア①)
 - ・学級活動では誕生日会や6年生を励ます会等を企画・立案し、準備や計画を児童自ら行うことで社会性を育むとともに、お互いの存在や命を大切にする心を育む。(イー②)
 - ・生活単元学習において、ICT機器、栽培活動、刺繍・作業、調理、徒歩学習、買い物学習、外国語活動等の学習を計画的に継続して行うことで、児童の主体性や自立・社会性を育む。(エー②)
 - ・交流及び共同学習については、通常学級の授業や行事（社会科見学、安全教育、がん教育、租税教室等）に参加することで社会性を育むとともに、学習の理解を深める機会を設ける。(イー①・エ②)